

# 「コンピュータ西暦2000年問題」対応点検結果表（コンピュータシステム）

施設名： 国立 病院

（部門名： 事務部医事課 \_\_\_\_\_）

- <選択肢>
- \*1... 「対応状況」：[1]対応済、[2]作業中、[3]対応予定、[4]不要
  - \*2... 「対応法」：[1]修正、[2]更新、[3]その他
  - \*3... 「担当者」：[1]納入業者、[2]保守委託業者、[3]施設員、[4]その他
  - \*4... 「プログラムソフトウェア」：[1]有、[2]無
  - \*5... 「扱うデータ」：[1]有、[2]無
  - \*6... 「2000年問題の有無」：有（[1]対応済、[2]作業中、[3]対応予定）[4]無
  - \*7... 「当システムの影響」：[1]有、[2]無
  - \*8... 「相手システムの影響」：有（[1]対応済、[2]作業中、[3]対応予定）[4]無
  - \*9... 「実施状況」：[1]実施済、[2]作業中、[3]実施予定、[4]実施不可能
  - \*10... 「実施結果」：[1]正常動作確認、[2]システム停止、[3]誤動作

平成10年 月30日現在

番号	システム名	施設担当者名	システム改定可能業者名 (納入業者名又は保守委託業者名)	2000年対応状況					2000年問題の有無					他システムとのデータ交換					模擬システム実施状況					備考		
				対応状況 *1	完了又は完了予定年月	対応法 *2	対応方法に伴う経費(千円)	担当者 *3	プログラムソフトウェア *4	扱うデータ *5	システム名	施設名	担当者名	2000年問題の有無 *6	相手システムの影響 *7	相手システムの影響 *8	実施状況 *9	完了又は完了予定年月	模擬システムに伴う経費(千円)	実施結果 *10	担当者 *3					
1	オーダーシステム	夫	日本	4				1	2	2	2	2	2	2	2											
2	医事会計システム	夫	日本	1	H10.8	1		1	2	2	2	2	2	2	2											
3	病歴管理システム	夫	東西	3	H11.3	1		1	2	2	2	2	2	2	2											
4																										
30																										

部門名： 欄 各課（科）、室等ごとの作成

システム名 欄 システムが単独で稼働しているシステム名

システム改定可能業者名 欄 2000年対応について、実施又は協力している業者

2000年対応状況 欄 2000年問題に対し、対応の必要のあるシステム（1～3）  
対応状況 欄 影響のないシステム（4）

対応法 欄 対応状況欄の1～3に対しての対応の方法  
「3 その他」については、備考欄に記入のこと

対応者 欄 対応法欄の対応方法を実施（予定）するもの  
2000年問題の有無 欄 2000年問題の有無  
プログラムソフトウェア 欄 （問年のソフトウェアも含まれる）

扱うデータ 欄 扱うデータが2000年問題の対応の有無又は利用の有無

他システムとのデータ交換 欄

データ交換先 欄 2000年問題の有無 欄

当方システムの影響 欄

相手方システムの影響 欄

模擬システム実施状況 欄

実施結果 欄

データの交換先が複数の場合は、すべての交換先について点検

データ交換している先についての基本事項  
データ交換先の「対応状況」  
「4 無」は影響のないシステム

他システムとのデータ交換、「2000年問題の有無」が有の場合、  
当方システムの影響

「2000年問題の有無」、「扱うデータ」が有の場合、相手方が  
データを扱う上での対応状況の有無

模擬システムに「4 実施不可能」は、模擬システムが  
実施できないシステム

模擬システムを行った結果内容

## コンピュータ西暦 2000 年問題 システム点検表

## A 基本表

部局・課室	国立 病院 事務部医事課	
記入者・連絡先	氏名 山 夫 内線 2315 e-mail	
特殊法人等の名称 担当者・連絡先	法人名 _____ 氏名 _____ 電話 _____	
点検表の作成日	平成 10 年 10 月 日	
No.	システム名	[ オーダーリングシステム ]
	サブシステム名	[ オーダーシステム ]
	機器名	[ ]
	型式	[ ]
(システム内一連番号 No. 1)		
システムのランク		
開発・製造(業)者	(株)日本	
サポート体制	有 無	[ 有・無 ]
	内 容	電話問い合わせ 必要に応じて現地訪問による対応
	連絡先	所属 官公情報システム部 氏名 鈴 太郎
販売業者		
サポート体制	有 無	[ 有・無 ]
	内 容	
	連絡先	所属 _____ 氏名 _____

B 点検項目

1-1 プログラムロジック上の2000年問題の有無 [ 有・無 ]	
1-2 判断した者	所属 官公情報システム部 氏名 鈴 太郎
2-1 扱うデータ上の2000年問題の有無 [ 有・無 ]	
2-2 判断した者	所属 官公情報システム部 氏名 鈴 太郎
3-1 他のシステムとのデータ交換の有無 [ 有・無 ]	
3-2 判断した者	所属 官公情報システム部 氏名 鈴 太郎

4 他のシステムとのデータ交換を行うシステムの点検

<p>4-1 相手側 システム</p>	<p>名称 国立 病院                  所管 事務部医事課                  担当者氏名 山 夫                  連絡先</p>	
<p>4-2 相手側システム上の2000年問題の有無 [ 有・無 ]</p>		
<p>4-2-1問題が有の場合、相手側システムの措置状況</p> <p>[ ]</p> <p>4-2-2当方システムへの影響の有無 [ 有・無 ]</p> <p>4-2-3当方システムへの影響を無とする場合の理由</p> <p>[ ]</p>	<p>4-2-4 2000年問題が無の場合、措置を講じた結果の有無であるときは、その措置内容</p> <p>[ ]</p>	
<p>4-3 2 - 1の答が(有)の場合(当方システムのデータに2000年問題がある場合)相手側システムへの影響の有無 [ 有・無 ]</p>		
<p>4-3-1相手側システムへの影響が有の場合、必要な措置と措置状況</p> <p>[ ]</p>	<p>4-3-2相手側システムへの影響を無とする場合、その理由</p> <p>[ ]</p>	

C 2000年問題への対応

5 2000年問題への対応状況 [ 完了・未了 ]	
5-1 対応が完了している場合の、その内容等	
5-1-1 実施者	所属 官公情報システム部 氏名 鈴 太郎
5-1-2 内 容	平成10年度に2000年問題対応済みの新システムにリプレースした。データ移行も実施した。
5-2 対応が未了である場合の今後の対応計画	
5-2-1 方 法	
5-2-2 スケ ジ ュー ル	
5-2-3 対 応 体 制	責任者 所属 _____ 氏名 _____ 実施者 所属 _____ 氏名 _____ 役割分担 [ _____ ]

D 優先システムへの対応

6 模擬テストの実施状況 [ 実施済・未実施 ]							
6-1 模擬テストが実施済である場合、その内容等							
6-1-1 実施時期	平成 10 年 10 月						
6-1-2 内容・方法	コンピュータのカレンダー機能を2000年1月の日付にセットし、テストデータを使用して実施した。						
6-1-3 実施者	所属 官公情報システム部 氏名 鈴 太郎						
6-1-4 立会職員	所属 事務部医事課 氏名 山 夫						
6-1-5 模擬テストの結果							
6-1-6	4 - 2 - 2 が ( 有 ) の場合、模擬テストに相手側システムとの連携テストが含まれていたか [ はい・いいえ ]						
6-1-7	模擬テストに相手側システムとの連携テストが含まれていた場合の相手側立会責任者 所属 氏名						
6-1-8	模擬テストで相手側システムとの連携テストを実施しなかった場合の今後の実施予定時期 平成 年 月						
6-2 模擬テストが未実施である場合の対応							
6-2-1 実施 予定	<table border="0"> <tr> <td>時期</td> <td>平成 年 月</td> </tr> <tr> <td>実施者</td> <td>所属 氏名</td> </tr> <tr> <td>内容・方法</td> <td>[ ]</td> </tr> </table>	時期	平成 年 月	実施者	所属 氏名	内容・方法	[ ]
時期	平成 年 月						
実施者	所属 氏名						
内容・方法	[ ]						

7 危機管理計画の策定状況 [ 完了・未了 ]	
7-1 計画の策定が完了している場合	
7-1-1 策定時期	平成 10 年 月
7-1-2 計画の名称	2000年問題 計画
7-2 計画を策定していない場合、策定予定時期	平成 年 月

## 厚生省コンピュータシステム総点検実施指針

### 1 システム点検表作成

対象 厚生省コンピュータ西暦2000年問題対策実施要領（以下「要領」という。）第1の4のシステム等

ただし、重複をできる限り排除するため、統計情報部は、自ら調達したシステム等を公開

作成者 対象を調達又は開発・作成した要領第1の3(1)の組織

点検表（別添様式）は、システム毎に以下の内容で構成

- (1) A（基本表） すべてのシステム等について記載
- (2) B（点検項目） 同上
- (3) C（2000年問題への対応） 1-1、2-1、4-2-2の答を（有）としたシステム等について記載
- (4) Dの6（模擬テストの実施状況） A及びBランクシステムの内必要なものについて記載
- (5) Dの7（危機管理計画の策定状況） 優先システム（Aランクシステム）について記載・記載要領（別紙）

### 2 システム点検表のチェック

統計情報部情報企画室は、システム点検表をとりまとめて、作業部会に報告

作業部会は、内容を審査し、システムのランク及び2000年問題対応計画を決定

総務庁への報告は、点検表から必要事項を抽出・作成

### 3 2000年問題対応計画

2000年問題対応計画は、システム点検表5及び6に掲げる事項から構成

5-1及び必要なシステムに関する6-1の各事項が満たされて（6-1-5で正常な動作結果を確認）、当該計画は達成

### 4 模擬テストの実施

模擬テストは、Aランクシステム及び特に必要と認められたBランクシステムについて実施

点検表1-1、2-1、4-2-2の答が（有）であるシステムについては、その対応が終了し次第、原則として平成11年6月までに実施

また、答が（無）である場合は、可能な限り速やかに、平成11年6月を下限として実施

手順

（システムの内容に左右されるが、基本的な手順は次のとおり）

(1) 事前確認

ハードウェア、ソフトウェア等システムの環境は、2000年問題への対応が終了していると考えられるか

・システム環境を網羅し、個々の機器、ソフトウェア、開発プログラムについての、業者・開発者への確認

(2) 環境整備

ア.正しいプログラムの実行結果（帳票、画面、ファイルへの出力）用意

イ.全データ（ファイル）のセーブ

ウ.（プログラムが、システムから時間を取得する場合等、必要な場合に）システム日付の変更

エ.（必要な）テストデータの作成

・プログラムとの整合性チェック

・システムの動作チェックが必要とするデータを把握

（処理データだけでよいが、管理データや参照データは必要か。）

オ.（必要な）テストデータの投入

(3) プログラムの実行

(4) 実行結果の正しい結果との比較

(5) 対応が必要な場合は、対応後(1)のオから再実施

対応が不要な場合は、

(6) システム日付を変更した場合は、その復帰

(7) 全データ（ファイル）のリストア

(8) 終了



## 留意点

- (1)汎用機の中には、模擬テストのためにシステムの時間を変更した場合の復旧策としては、システムの再構築・再立ち上げのような大がかりな手段しかないものもあるので、模擬テストの実施については業者との十分な打ち合わせが必要
- 24時間稼働システムについては、模擬テストが実環境では事実上不可能であるため、別に同一環境又はそれに近い環境を整備し実施。この場合、待機系システムの利用は不可
- (2)環境整備には、ファイルの満了期限の再設定等も含まれること  
(システムの設計者、プログラマーの管理のもとに環境整備する必要)
- (3)OS、ファームウェア等の環境にも留意し、あらゆる点でクリアと考えられる状態でテストは実施すべきであること
- (4)OS、ファームウェア、埋め込みチップ、買い取り(リース、レンタル)ソフトについては、メーカーの確認によること  
ただし、メーカーから利用者の模擬テストの方法が教示された場合は、それによって模擬テストを実施すること
- (5)開発を外注したシステム等については、メーカーの模擬テストに必ず職員が立ち会うこと
- (6)誤動作が生じた場合の影響を考え、できる限りプログラムの2000年問題の生じる箇所での動作確認を、可能な限り事前に終えておくこと

(別紙)

## 点検表記載要領

### A 基本表

- 1.部局・課室欄には、施設等機関及び地方支分部局は、当該機関等の名称及び点検表の作成者の所属を記入する。
- 2.No.欄には、部局毎に一連番号を記入する。
- 3.購入した既製のソフトウェア(プログラムプロダクト：一太郎、オラクル等)及び言語(COBOL、FORTRAN等)は、その名称をシステム名欄に記入する。プログラムプロダクトや言語が幾つかの部分(マクロ、コンパイラ、リンカ等)から構成されていても基本的に、それら部分をサブシステムとして扱う必要はない。
- 4.システムが、サブシステム、コンピュータ機器(プリンタ、スキャナ等の周辺装置を含む。)、その他の機器によって構成される場合は、それぞれについて別々に点検表を作成し、システム名欄に同一のシステム名とシステム内一連番号欄にシステム毎の一連番号を記入する。一連番号は、サブシステム等をまとめて付与する(例 あるシステムにサブシステムが3、機器が5あるときは、一連番号は、サブシステムに1~3、機器に4~8を付与)。システムが1枚の点検表で表される場合は、一連番号は不要である。  
総務庁への報告等は、システムを構成するいずれかの部分に対応計画が記載されていても、それをシステム全体としての対応計画として扱う。
- 5.機器が、コンピュータ機器であるときは、OSについて別葉の点検表を作成する。この場合機器の点検表と、OSの点検表は連続したシステム内一連番号を付与する。
- 6.コマンド(DOSにおけるmkdir等、UNIXにおけるsort等)及びUNIXにおけるシェル、汎用機におけるJCLは、OSの一部として扱い、別葉の作成は要しない。
- 7.システムを構成するコンピュータ機器は、製造業者によって若干の差はあるが、基本的に磁気ディスク装置、磁気テープ装置を含めた一式として1点検表に記載する。ただし、一式中に、他の製造業者が製造した部分のあるときは、別葉とする。プリンタ、モデム、ターミナルアダプタについてはそれぞれ別葉とする。
- 8.型式は、機器等を特定するための最低限の記述を要する。(一太郎等のバージョンはここに記載。)
- 9.埋め込みチップによって制御されている、エレベータ、空調機、医療用具等の機器については、単独で作動している場合は、システム名の記入は要しない。しかしそれがネットワークに接続されて他の機器等とデータ交換を行っている場合は、システムを構成する一部として前項と同様に扱う。  
埋め込みチップが使用されている機器等には、自動ドア、電源盤制御等も含まれておりこれら機器等についても漏れなく点検を行う。
- 10.システム、サブシステムに含まれるプログラム内で使用するコマンド、サブルーチン及び関数が他の部局等の作成又は調達に係るものであるときは、点検表は、当該部局等において作成する。  
統計情報部電子計算機室は、自ら作成したコマンド等について、点検結果を省内に公表するので、当該コマンド等の使用の有無を確認の上、必要な点検を行う。
- 11.システムが厚生省LANシステムの機器を使用している場合は、当該機器等についての点検表は、システム名及び機器名の記入でよいが、機器名の後ろに(KLAN)と付記する。

12. システムランク欄には、実施要領第2の2(1)の基準に従ってA、B又はCを必ず記入する。システムの点検が複数の点検表から構成される場合は、システム内一連番号が1の点検表にだけランクを記入する。

13. 各部局の職員が自ら開発したシステムについては、開発・製造(業)者欄に部局・課室氏名を記入する。複数の職員が開発に従事したシステムについては、代表者又は担当係名を記入する。業者と職員の共同開発に係るシステムについては、両者を併記する。

14. 開発・製造(業)者、販売業者のサポート体制欄は、すべてのシステム等について記載する。ただし、職員の開発したシステムについては、開発・製造(業)者欄に記入した者又は係をサポートする者として扱う。ただし、開発者と2000年問題が生じたときにそれに対応する者が異なっている場合は、サポート体制連絡先欄に当該職員又は係を記入する。

## B 点検項目

1. プログラムロジック上の2000年問題の判断は、プログラムが含むサブルーチン、関数が他の者の作成したものであるときは、作成者の確認が必要である。また、「2000年問題」には、閏年判断のロジックも含まれることに留意する。

当座下2桁の暦年を扱うために、西暦下2桁には、一定期間2000を加える場合と1900を加える場合とに処理を分ける、とするようなプログラムの修正は、「つぎ」を当てただけで、なお2000年問題が存在するものとして扱う。

2. 扱うデータ上の2000年問題の有無は、例え西暦下2桁のみのデータが存在していても、それを処理に利用していなければ2000年問題はない。データ上の2000年問題は、それが2桁のままプログラムによって大小比較や、経過時間計算が処理されるときに生じる。従って多くの場合、データ上の2000年問題は、プログラムロジック上の2000年問題と共に存在し、データを下2桁から4桁へ修正することと同時にプログラムの修正を行わなければならない。(プログラム上、「00」は、2000として扱う、というように修正することは不完全な対応であり、1の後段は、その一例である。)

単にデータ上の2000年問題がある、とされるのは、単純に(データの項目の意味に関わりなく)データの整列を行うプログラムがそれを扱う場合であり、これは西暦下2桁を4桁に修正することでは対応できない。

3. 1-1、2-1及び3-1の判断は、システムの設計者、プログラマーが直接行うか、それが不可能なときに限ってコンピュータの動作環境を理解しプログラムのソースを読むことのできる者が行うべきである。従って、それぞれの判断者は、職員がシステムの開発者である時を除いて、システムの開発業者でなければならない。

4. 2-1の「扱うデータ」には、他のシステムとのデータ交換でもたらされるデータは含まれない。(これについては、4に記載する。)ただし、他のシステムからもたらされるデータを編集して自システムで利用している場合は、編集後のデータから「扱うデータ」に含まれる。

5. あるシステムの点検が複数の点検表から構成される場合は、3-1は、システムとしての他システムとのデータ交換を意味しているので、答はシステム内一連番号が1の点検表だけに記入する。

6. 3-1の答えが「有」であるときは、4を作成する。データ交換を行っているシステムが複数ある時は、すべての相手側システムについて4を作成する。

7. 4-2の記載において、相手側システムからは2000年問題はないとの回答を得た場合でも、当方システムに伝送するデータの内容を確認の上最終的な2000年問題の有無を判断する。

## C 2000年問題への対応

1. 1-1、2-1、4-2-2の答が(有)のときは、Cを作成する。また、今回の点検時点での答が(無)であっても、以前2000年問題があつて対応の結果(無)となったものについても作成する。

2. 5-1-1には、職員、業者を問わず5-1-2を実際に作業した者について記入する。実際に作業した者が複数あるときは、その責任者を記入する。

3. 5-1-2には、「プログラムの修正」、「プログラムの作り替え」、「機器の更新」、「チップの入れ替え」、「データの作り替え」等の具体性で記載する。また、結果の確認方法についても記載する。ただし、模擬テストについては、6に記載する。予算措置によって措置を講じた場合は、その旨明記する。(例：平成10年度予算で対応)

4. 5-2-1は、計画が完了した場合は5-1-2に転記される内容を記載する。対応のために予算措置を講じるものについては、その旨明記する。(例：平成10年度2次補正予算)

5. 5-2-3の責任者欄には、必ず厚生省職員の所属、氏名(係長又は補佐(専門官等))を記載する。実施者欄には、実際に5-2-1の作業を行う予定の者について記入する。役割分担欄には、責任者のもとに複数の者(業者を含む)が一定の役割分担のもとに作業を行う場合、その内容を記載する。

#### D 優先システムへの対応

- 1.すべてのAランクシステムと、特に模擬テストの実施が必要と思われるシステムについては、6の記載を要する。6は、システム毎に1葉の提出でよい。
  - 2.6-1-2には、模擬テストが本番環境下において行われたか否かも明記する。本番環境下で行われなかった場合は、そのようなテストで十分目的を達する、とした理由を明記する。
  - 3.6-1-3で、職員自らを模擬テストの実施者として記入した場合は、6-1-4の記入は要しない。両項において、複数の職員が実施者又は立ち会い者である場合は、責任者の氏名又は担当係名を記入する。ただし、6-1-3で、実施者が複数の業者である場合は、責任者の氏名を明記する。
  - 4.6-1-5は、実際にテスト結果がシステムの停止も、誤作動もないことが確認された場合に「正常な動作結果（システム停止なし、誤作動なし）を確認」と記載する。そうでない場合は、6-1-5で状況を説明するとともに、6-2の記載も必要である。
  - 5.6-2-1の方法欄には、本番環境下での模擬テストであるか否かも明記する。本番環境下で行われなかった場合は、そのようなテストで十分目的を達する、とする理由を明記する。
  - 6.すべてのAランクシステムについては、7以下を記入する。7は、システム毎に1葉の提出で可とする。
-

## 点検表の記入要領の補足説明

### A 基本表

No.	システム名	[ オーダーリングシステム ]
	サブシステム名	[ オーダーシステム ]
	機器名	[ ]
	型式	[ ]
(システム内一連番号 No. 1)		

サブシステム（プログラム）は、サブシステム欄に記入する。  
（それぞれのサブシステム毎に別葉にすること。）

No.	システム名	[ オーダーリングシステム ]
	サブシステム名	[ ]
	機器名	[ ハードウェア ]
	型式	[ 別紙のとおり ]
(システム内一連番号 No. )		

コンピュータ機器等は、機器名欄に「ハードウェア」、形式欄に「別紙のとおり」と記入し、別紙に機器名及び形式の一覧表を付けることにより、機器を一括にして一つの点検表に記入すること。

No.	システム名	[ オーダーリングシステム ]
	サブシステム名	[ ]
	機器名	[ ソフトウェア ]
	型式	[ 別紙のとおり ]
(システム内一連番号 No. )		

市販されているパッケージソフトは、機器名欄に「ソフトウェア」、形式欄に「別紙のとおり」と記入し、別紙にパッケージソフト名及び形式（バージョン）の一覧表を付けることにより、パッケージソフトを一括にして一つの点検表に記入すること。

# 「コンピュータ西暦2000年問題」対応点検表(コンピュータシステム)

施設名： 国立 病院  
 (部署名： 事務部医事課 )  
 システム名  
 番号  
 3 病歴管理システム

- <選択肢>  
 \*1・・・「対応状況」：[1]対応済 [2]作業中 「3」対応予定 [4]不要  
 \*2・・・「対応法」：[1]修正 [2]更新 「3」その他  
 \*3・・・「対応者」：[1]納入業者 [2]保守委託業者 [3]施設職員 [4]その他  
 \*4・・・「プログラムシット上」：[1]有 [2]無  
 \*5・・・「扱うデータ上」：[1]有 [2]無  
 \*6・・・「2000年問題の有無」：有([1])対応済 [2]作業中 [3]対応予定 [4]無  
 \*7・・・「相手方システムの影響」：[1]有 [2]無  
 \*8・・・「相手方システムの影響」：有([1])対応済 [2]作業中 [3]対応予定 [4]無  
 \*9・・・「実施状況」：[1]実施済 [2]作業中 「3」実施予定 [4]実施不可能  
 \*10・・・「実施結果」：[1]正常動作確認 [2]システム停止 「3」誤動作

平成10年 月30日現在

番号	サブシステム名及び導入機器等名	施設担当者名	システム改定可能業者名(納入業者名又は保守委託業者名)	2000年対応状況		2000年問題の有無		他システムとのデータ交換				模擬テスト実施状況		備考				
				対応状況 *1	完了又は完了予定年月	対応法 *2	対応者 *3	プログラムシット上 *4	扱うデータ上 *5	システム名	施設名	担当者名	2000年問題の有無 *6		相手方システムの影響 *7	相手方システムの影響 *8	実施 *9	完了又は完了予定年月
1	病歴検索システム	山 夫	東西	4														
2	病歴入力システム	山 夫	東西	3	H11.3	1	1	2										
3	RS/1235	山 夫	東西	4														
4	PC12/235	山 夫	東西															
5	PRT/233	山 夫	東西															
6	SCN/135	山 夫	東西															
7	ローテロ次郎Ver	山 夫	東西															
8	表次郎 5 Ver.23	山 夫	システム															
9																		
30																		

部署名： 欄  
 システム名 欄  
 サブシステム名及び導入機器等名 欄  
 システム改定可能業者名 欄  
 2000年対応状況 欄  
 対応法 欄  
 対応者 欄  
 2000年問題の有無  
 プログラムロジック上 欄  
 扱うデータ上 欄

各課(科)、室等ごとの作成  
 点検表(別紙2)の「システム名、欄の番号及びシステム名を転記  
 システムを構成しているサブシステム(プログラムの  
 及び形式(パーシジョン)名(市販されている/パッケージソフトについては  
 ソフト及び形式名のみを記入)  
 システムを構成しているサブシステム(プログラムの  
 及び形式(パーシジョン)名(市販されている/パッケージソフトについては  
 ソフト及び形式名のみを記入)  
 システム改定可能業者名 欄  
 2000年問題に対し、対応の必要のあるシステム(1~3)  
 対応状況 欄  
 対応法 欄  
 対応者 欄  
 2000年問題の有無  
 プログラムロジック上 欄  
 扱うデータ上 欄

他システムとのデータ交換 欄  
 データ交換先 欄  
 2000年問題の有無 欄  
 当方システムの影響 欄  
 相手方システムの影響 欄  
 データ交換先の「対応状況」  
 「4 無」は影響のないシステム  
 他システムとのデータ交換、「2000年問題の有無」が有の場合、  
 当方システムの影響  
 「2000年問題の有無」、「扱うデータ上」が有の場合、相手方が  
 データを扱う上での対応状況の有無

模擬テスト実施状況 欄  
 実施状況 欄  
 実施結果 欄  
 模擬テストについての実施状況  
 「4 実施不可能」は、模擬テストが実施できないシステム  
 模擬テストを行った結果内容

「コンピュータ西暦2000年問題」対応点検表(医療機器等)

施設名: \_\_\_\_\_

【部門名: \_\_\_\_\_ ( )】

(注意事項)・ラック欄は、生命に影響を与える可能性のある医療機器「A」とし、それ以外の機器に関しては「C」とする

・設置場所は、看護単位ごとに記入し「N」ではなく、必ず名称を記入する(すべての欄においても「N」ではなく、名称を記入)

・外来及び在宅による機器の使用(ペースメーカー等)については、備考欄に患者氏名を記入する

・印のある項目については、表下段の<選択肢>より番号を記入する

設置場所	機器名	型式	製造業者名	コンピュータ西暦問題 2000年問題 対応業者名	施設 担当者 氏名	取得 年月日	取得価格 (千円)	ラック 状況 <sup>1)</sup>	知照(予定) 年月日 <sup>2)</sup>	検討 対応方法 確認方法 <sup>3)</sup>	経費 (千円)	知照の 年月日 <sup>5)</sup>	模 擬 ラ ス ト の 実 施 者 <sup>6)</sup>	経費 (千円)	2000年以降でのラスト 年月日 <sup>7)</sup>	実 施 者 <sup>6)</sup>	備 考
1病棟	人工呼吸器	JK-3	○光電	○光電	○○○○	992.3.31	5,000 A	3	3	2					2	10000	
1病棟	人工呼吸器	KU-4	○光電	○光電	○○○○	H3.3.31	1,500 A	1	6	1							
1病棟	3種及び小型心臓ペースメーカー	PM-0.6	○光電	○光電	○○○○	H3.6.30	1,800 A	4	1	3							
2病棟	4種及び小型心臓ペースメーカー	PM-0.6	光電	○光電	○○○○	H4.12.12	2,000 A	4	1	3							
2病棟	5種型型保命器	BH7.0.0	○光電	○光電	○○○○	H3.3.31	2,500 A	3	6	1							
2病棟	6種型型保命器	BH7.0.0	○光電	○光電	○○○○	H3.6.30	5,000 A	3	6	1							
2病棟	7種型型保命器	BK-5.0.0	○光電	○光電	○○○○	H3.3.31	4,500 A	1	3	2							
2病棟	8種型型保命器	BU-6.0.0	○光電	○光電	○○○○	H4.3.31	1,800 A	3	6	1							
2病棟	9種型型保命器	AU-7.0.0	医療	医療	○○○○	H4.12.12	2,000 A	3	6	1							
3病棟	10種型型保命器	AU-5.0.0	日本○	○光電	○○○○	H3.6.30	2,200 A	3	6	1							
外来	11種及び小型心臓ペースメーカー	PM-0.8	光電	○光電	○○○○	H3.6.30	1,300 A	4	1	3							
在宅	12人工呼吸器	KU-5	○光電	○光電	○○○○	H3.3.31	1,000 A	3	6	1					2	10000	0000
13																	
14																	
15																	
16																	
17																	
18																	
19																	
20																	
21																	
22																	
23																	
24																	
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	
30																	
31																	
32																	
33																	
34																	
35																	
36																	
37																	
38																	
39																	
40																	

<選択肢>

- \*1【対応の状況】  
 1.済み  
 2.作業中  
 3.対応予定  
 4.不要

- \*2【対応の方法】  
 1.ソフトウェア修正  
 2.機器更新  
 3.問題なし  
 4.その他

- \*3【対応の方法】  
 1.製造メーカー(氏名も記入)  
 2.納入メーカー(氏名も記入)  
 3.施設実施責任者(氏名も記入)  
 4.その他

- \*4【実施者】  
 1.製造メーカー(氏名も記入)  
 2.納入メーカー(氏名も記入)  
 3.施設実施責任者(氏名も記入)  
 4.その他

- \*5【対応の状況】  
 1.既に済んで完了  
 2.1998年12月までに対処  
 3.1999年3月までに対処  
 4.1999年6月までに対処  
 5.1999年9月までに対処  
 6.1999年12月までに対処  
 7.2000年1月までに対処

- \*6【確認方法】  
 1.厚生省及び企業のホームページ  
 2.企業が提供したパンフレット等  
 3.メーカーより確認(担当者記入)  
 4.その他

- \*7【ラスト予定日】  
 1.1月1日  
 2.1月31日  
 3.1月3日  
 4.実行不可(常時態様に切り付けているもの等)

## 「別紙5」の\*印のある項目の記入要領

### \* 1 【対応の状況】

#### 1 . 済み

既に、機器更新等の計画があり対応している場合

#### 2 . 作業中

既に、メーカーや施設で取り組んでいる場合

#### 4 . 不要

西暦2000年を過ぎても、機器に異常が起こらないと確定している場合

### \* 3 【対応方法】

#### 1 . プログラム修正について

カレンダー機能の異常、年齢計算の異常等のロジック上の問題や、データ検索、呼び出しができない等の場合

### \* 4 【確認方法】

\* 3 【対応方法】の3 . 問題なしとした場合の確認方法

### \* 5 【対応の状況】

#### 2 . 当施設で確認している

施設内でなんらかの方法により模擬テストを行っている場合

#### 3 . 実行不可

メーカー、施設においても模擬テストが行えない場合

上記以外については、別紙5の右上の注意事項を参照のこと

「コンピュータ西暦2000年問題」対応点検表（個別表：一般・医療設備）

1998/11/16  
記入例

施設名：国立 病院

（部門名：施設管理係）

- <選択肢>
- \* 1...「コンピュータ等機器の有無」：[1]有 [2]無 [3]確認中
  - \* 2...「2000年問題の有無」：[1]有 [2]無 [3]確認中
  - \* 3...「対応状況」：[1]対応済 [2]作業中 [3]対応予定
  - \* 4...「対応方法」：[1]改修 [2]更新 [3]その他
  - \* 5...「対応者」：[1]メーカー [2]施工業者 [3]保守委託業者
  - \* 6...「実施状況」：[1]施設にて実施済 [2]実施予定 [3]実施不可能
  - \* 7...「実施結果」：[1]正常動作確認 [2]誤動作

番号	機器名	施設担当者名	メーカー名	施工業者又は保守委託業者名	設置年	2000年		2000年対応状況		機器リスト実施状況		備考	
						コンピュータ等機器の有無 *1	問題の有無 *2	対応状況 *3	完了又は完了予定年月	対応方法 *4	対応方法に伴う経費 (千円)		対応者 *5
1	無線電波装置	国立大部	〇〇電気(株)	〇〇電気工事(株)	H3	1	2					1	電気 氏仁確認
2	自家発電設備	国立大部	重工(株)	電気工事(株)	S53	2							電気工事 氏仁確認
3	中央監視設備	国立大部	××電気(株)	××電気(株)	S58	1	1	3	H11.4	1	1500	1	
4	ボイラー1号缶	病院二部	製鉄所	設備	H1	1	2						
5	火災報知受信機	国立大部	防災(株)	〇〇電気工事(株)	S63	1	1	1	H10.8	1	0	3	
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
22													
23													
24													
25													
26													
27													
28													
29													
30													

平成10年12月現在



「コンピュータ西暦2000年問題」対応点検表（個別表：一般・医療設備）  
記入要領

- 1 「施設名」  
漢字全角にて記入（例、国立 病院、国立療養所 病院）
- 2 「部門名」  
一般・医療設備を所管している部門を漢字全角にて記入  
（例、施設管理係、整備係）
- 3 「番号」  
様式では30番まで記載されているが、2枚以上となる場合は、連番となるよう2枚目以降の番号を修正すること。（数字は半角）
- 4 「機器名」  
機器名を記入（漢字全角）  
（例、無停電電源設備、自家発電設備、中央監視設備、ボイラー1号機、  
火災報知受信機）
- 5 「施設担当者名」  
機器の管理者（電気士、ボイラー技士等）の氏名を記入（漢字全角）
- 6 「メーカー名」  
機器の名称板等に記載のメーカーを記入（漢字全角、カタカナは半角、  
株式会社は（株）、有限会社は（有）と略すこと）
- 7 「施工業者又は保守契約業者名」  
施工業者又は保守業者の会社名を記入（漢字全角、カタカナは半角、  
株式会社は（株）、有限会社は（有）と略すこと）
- 8 「設置年」  
機器が設置された年を和暦半角文字で記入する。  
（例、S63, H3）
- 9 「コンピュータ等搭載の有無」  
機器にコンピュータ又はマイクロコンピュータ搭載の有無を＜選択肢＞  
\*1より半角数字にて記入する。なお、施工業者等からコンピュータ等の  
搭載の無い旨回答があった場合には、点検表の備考欄に回答した相手方の  
会社名、氏名を記入すること。
- 10 「2000年問題の有無」  
施工業者等に問い合わせた結果を＜選択肢＞\*2より半角数字にて記入  
する。
- 11 「2000年対応状況」

- (1) 「対応状況」  
機器に「2000年問題」があった場合の報告月現在の対応状況を  
＜選択肢＞\*3より半角数字にて記入すること。
- (2) 「完了又は完了予定年月」  
機器に「2000年問題」があった場合の改修等の完了又は完了予定  
年月を和暦半角文字にて記入すること。なお、年と月の間は半角ピリオ  
ードにて区切ること。（例、H11.5）
- (3) 「対応方法」  
機器に「2000年問題」があった場合の対応方法を＜選択肢＞\*4  
より半角数字にて記入すること。
- (4) 「対応方法に伴う経費」  
対応方法が有償となる場合は概算金額（消費税込み）を半角数字にて  
記入すること。
- (5) 「対応者」  
対応方法の実施者を＜選択肢＞\*5より半角数字にて記入すること。

## 12 「模擬テストの実施状況」

- (1) 「実施状況」  
模擬テストの実施状況を＜選択肢＞\*6より半角数字にて記入するこ  
と。なお、メーカーの工場等で同一機種種の模擬テスト実施により誤動作  
等の無い旨回答があった場合は点検表備考欄に回答した相手方の会社名、  
氏名を記入すること。
- (2) 「完了又は完了予定年月日」  
模擬テストの完了又は完了予定年月日を和暦半角文字にて記入するこ  
と。なお、年と月の間は半角ピリオードにて区切ること。（例、H11.5）
- (3) 「模擬テストに伴う経費」  
模擬テストが有償となる場合は概算金額（消費税込み）を半角数字に  
て記入すること。
- (4) 「実施結果」  
模擬テストの実施結果を＜選択肢＞\*7より半角数字にて記入するこ  
と。
- (5) 「対応者」  
模擬テストの実施者を＜選択肢＞\*5より半角数字にて記入すること。

## 13 「備考」

9及び12(1)において回答した相手方の会社名、氏名を記入する場合使用  
すること。（漢字全角、カタカナ半角）

## 各施設における「コンピュータ西暦2000年問題」対応状況報告（総括表）

施設名	国立 病院
総括責任者（職名及び氏名）	病院長 総括 責 郎

危機管理計画策定状況	
策定済み	策定予定（予定年月）
	年 月

（本件連絡先）

担当部署名及び担当者名	事務部庶務課 庶務 次郎
連絡先電話番号	－ ー 1 2 3 4 内線 1 2 3 4

平成10年 月30日現在

調査項目	システム数 及び機器数	2000年対応状況（内訳）				模擬テスト実施状況（内訳）		
		不要 件数	対応済 件数	作業中 件数	作業予定 件数	実施済 件数	実施予定 件数	実施不可能 件数
(1) コンピュータシステム	3	1	2		1	2		
(2) 医療機器	35	25	5		5	3	27	
計	38	26	7	0	5	5	27	

総括責任者（職名及び氏名） 欄 2000年問題対応体制の総括責任者

担当部署名及び担当者名 欄 報告等の取りまとめ（窓口）を行う部署等

システム数及び機器数 欄 コンピュータシステムは、点検表（別紙3）の記入部数

医療機器は、点検表（別紙5）の内、マニュアルの別添ー3の機器件数

危機管理計画策定状況 欄 危機管理計画書の作成の有無

2000年対応状況（内訳）

不要件数 欄 2000年問題の対応の不要な件数

対応済件数 欄 2000年問題の対応（修正、更新等）を終了した件数

作業中件数 欄 2000年問題の対応（修正、更新等）作業中の件数

作業予定件数 欄 2000年までに対応（修正、更新等）を予定している件数

模擬テスト実施状況（内訳）

実施済件数 欄 模擬テストを実施した件数

実施予定件数 欄 2000年までに実施を予定している件数

実施不可能件数 欄 模擬テスト環境が設定できない件数

コンピュータ西暦2000年問題対応確認票（医療機器等）

点検表番号	2	受信者又は確認者名
メーカーにおいて 正常稼動確認済	平成 年 月 日連絡受	
1999年12月31日以前 模擬テスト	平成 11 年 12 月 完了	山田
動作確認テスト	平成 12 年 1 月 完了	

**危機管理計画のイメージ**

(1) コンピュータシステム

A 具体的な危機管理体制の確立

各部門システム危機管理責任者

部門名	役職	氏名	内線
医事課	医事課長	山 夫	
庶務課	庶務課長	×田 明	
薬剤科	薬剤科長	中 ×男	

B 動作確認計画の作成

模擬テストの実施不可能なシステムについては、平成12年(2000年)1月1日以降にシステムの使用開始以前に動作確認テストを実施し、システム停止、誤動作の有無を担当職員において納入業者等の立ち会いのもと確認する。

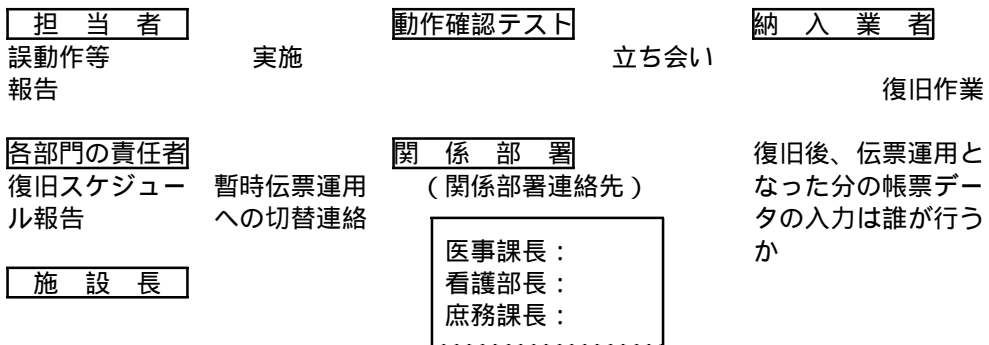
(部門名：事務部医事課)

番号	システム名
2	病歴管理システム

番号	サブシステム 導入機器等名	施設担当者名	納入業者名 保守委託業者名	模擬テスト実施状況			備考
				実施状況			
1	病歴検索システム	山田 太郎	システムズ	4			1月1日動作確認予定
2	病歴入力システム	山田 太郎	システムズ	4			1月1日動作確認予定

模擬テスト実施不可能のものについて備考欄に動作確認予定日を記入する。

C 平成12年(2000年)1月1日以降の動作確認テストにおける誤動作等を発見した場合の連絡網、代替運用への切替連絡手順等の準備



D 各部門システムが停止又は誤作動した場合の復旧までの伝票・帳票必要量の計算

システム名	影響する業務	伝票・帳票の種類	1日あたりの使用量	想定日数
医事業務システム	窓口会計 患者登録業務 診療報酬請求業務 医事統計業務 経営管理業務			

E その他障害発生時の各業務の具体的な対応方法作成例

**オーダーリングシステムで全端末のアクセスが不能になった場合の例**

(1) 程度：全端末でアクセス不能

(2) 原因：ネットワーク機器の障害・電源の障害等の全体の障害

(3) 対策：

- ・受付：再来予約患者・新患患者は既存の伝票・帳票記載で運用し、復旧後事後入力を行う。
- ・当日カルテ出しは、電話で依頼。
- ・算定窓口は次回算定・会計処理とする。
- ・医事算定：処置伝票を基にした算定を施行。復旧後事後入力を行う。処置伝票による運用。
- ・薬剤業務：内服・外用薬の手書き処方箋に基づく調剤。
- ・外来診療：再来入院予約・オーダー等の伝票記載、復旧後事後入力を行う。
- ・当日検査情報は電話で問い合わせる。
- ・病棟診療：再来入院予約・オーダー等の伝票に記載をする。復旧後事後入力を行う。当日検査情報は電話で問い合わせる。必要に応じて臨床検査部門で報告書を印刷し配布する。

**危機管理計画のイメージ**

( 2 ) 医療機器等

A 平成12年(2000年)1月1日0時の待機体制計画

1. 1999年12月31日から2000年1月1日にかけては、安全性の確認が出来ない医療機器は、可能な限り使用を避け、従来法に切り替えるものとする。やむを得ず使用する場合でも、特に生命に危険を及ぼす可能性の高い医療機器は、誤作動等を起こした場合に備えて手動対応がとれるように必要な人員等を確保する。

- 例) 輸液ポンプ ..... 小児用点滴セット単体に切り替え、用手法により調節する。
- 人工呼吸器 ..... 人工呼吸器を装着している患者については、1台1名以上の人員と手動式呼吸器1式を確保し、即時切り替えられるようにしておく。
- 患者監視装置 ..... 予備の機器としてパルスオキシメーター等を準備する。

2. 緊急の対応完了後、発生した事故について、担当医師は副院長を通じて、院長に速やかに報告するものとする。(第1報は電話等での口頭連絡で可とする。)

(緊急連絡先) 12月31日10時～1月1日2時

院 長	院 長 室	内 線	( P B )
副 院 長	副 院 長 室	内 線	( P B )
看 護 部 長	看 護 部 長 室	内 線	( P B )

B 動作確認計画及び代替措置計画

( 部門 )

模擬テストの実施等の事前確認が不可能であった医療機器等の一覧

設置場所	機 器 名	型 式	製造業者名	2000年以降でのテスト			
				テスト予定 月日	担当者	不具合時 の対応	
1病	1	人工呼吸器	AT-1045	工業			
1病	2	人工呼吸器	AT-1045	工業			
1病	3	人工呼吸器	AT-1185	工業			
1病	4	除細動器	MM20457	× × 電子	1月2日	田	機器交換
1病	5	除細動器	B-1029	機器	1月2日	田	機器交換
1病	6	輸液ポンプ	KC192830	電子	1月1日	山	機器交換

C 2000年以降のテスト時における連絡網、連絡手順等

機器等の作動異常発見者

当該部門の責任者

施設長

製造業者等

(連絡先)

業者名	担当者名	電話番号
医療機器販売	山 × 助	045- - × × × × 携帯 090- - × × × ×
× × 電子	× 田 夫	045- - × × × × 携帯 090- - × × × ×
商事	中 太	045- - × × × × 携帯 090- - × × × ×





危機管理計画のイメージ

(3) 一般・医療設備

A 平成12年(2000年)1月1日0時の待機体制計画

設備名	役職	氏名	待機場所	内線
電気設備	電気士	国立太郎	電気室	
機械設備	ボイラー技士長	病院二郎	ボイラー監視室	

ア 患者の生命維持に資している一般・医療設備の誤作動に備え、上記の配置体制において12月31日午後10時から1月1日午前2時まで待機するものとする。

イ 万一の誤作動又は停電に対応するための仮設機器等の準備を整えるものとする。

機器名	仕様	設置場所等	点検状況	点検日
小型発電機	2KVA	ICU病棟生命維持装置	良好	12月27日
延長コード	10m	ICU病棟生命維持装置	良好	12月28日
懐中電灯		各病棟看護調整所	良好	12月28日

ウ 停電等施設全体に影響のある場合の各部署への連絡体制等。

エ 施設内の職員で対応できない場合の施工業者等の緊急連絡先。  
電力会社、ガス会社、上水道事業者等の緊急連絡先。  
(2000年1月1日0時に確実に連絡がとれること)

設備名	業者名	担当者名	電話番号
受変電設備	保安協会		携帯 - (自宅) - -
自家発電設備	電工		携帯 - (自宅) - -
防災設備	防災		携帯 - (会社) - -

オ 緊急の対応完了後、発生した事故について、担当者は事務(部)長を通じて、院長に速やかに報告するものとする。(第1報は電話等での口頭連絡で可とする。)

(緊急連絡先) 12月31日午後10時~1月1日午前2時

役職名	待機場所	内線
院長	院長室	
事務部長	事務部長室	

カ 同時に他箇所の機器に誤動作が起こった場合の、優先復旧順位、復旧方法等を定めること。

(電気設備)

優先順位	機器名	設置場所	復旧操作	復旧できない場合の対応
1	自家発電設備	自家発電室	手動操作	電工に連絡 仮設電源等の対応
2	受変電設備	電気室	手動操作	保安協会に連絡 電力会社に応援要請
3	自動火災報知設備	当直室	電源再投入	防災に連絡 火気使用注意等の院内連絡
4				
5				

B 動作確認計画及び代替措置計画

模擬テストの実施が不可能であった一般・医療設備を2000年1月1日以降動作確認して使用する機器等の一覧表の作成、テスト予定、不具合時の対応等計画する。

C 2000年1月1日以降の使用前テストにおける連絡網、連絡手順等

担当者

当該部門の責任者

施工業者等

施設長

(連絡先)

設備名	業者名	担当者名	電話番号
ボイラー設備	設備		- (自宅)
			携帯 -
空調設備	空調		- (自宅)
			携帯 -
防災設備	防災		- (会社)
			携帯 -